

管内の百名山 「飯豊山」



御前坂付近から望む(右から飯豊山・大日岳・牛首山)



御秘所付近から望む(右から飯豊山・御西岳・大日岳)

新潟・山形・福島 of 三県にまたがる飯豊連峰は、主峰、飯豊山（飯豊本山）（標高2,105㍍）を中心に、最高峰の大日岳（標高2,128㍍）、御西岳（標高2,013㍍）、北股岳（標高2,025㍍）、烏帽子岳（標高2,017㍍）など、標高2,000㍍級の峰が連なっています。

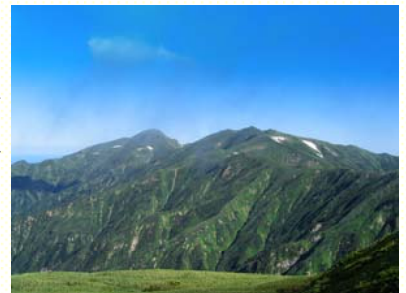
飯豊山は、古くから信仰の山として知られていますが、その山頂付近については、飯豊神社の所領権をめぐる米沢藩と会津藩、新潟県と福島県の争いがあったと言われており、明治4年の廃藩置県後に、新潟県に編入されましたが、飯豊山の南東麓の福島県側から山頂を経て御西岳に至る登山道付近と山頂付近は福島県喜多方市となっています。

飯豊山への登山ルートは、新潟県側からは、実川登山口（阿賀町）から大日岳を通るルート、福島県側からは、奥川・弥平四郎登山口（西会津町）から三国岳を通るルートや一ノ木・川入登山口（喜多方市）からのルートなどがあり、一般的には、一泊二日の行程となりますが、四季折々の景観を求め多くの登山者で賑わいます。

飯豊連峰周辺は、急峻な山岳と緩やかな稜線で形成され、山地帯にはブナを主体とする天然林が、また、稜線部は高山植物のお花畑などが広がっており、原生的な自然と山岳景観を併せ持ち「磐梯朝日国立公園」に指定されています。

下越森林管理署は、この豊かな自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存や学術研究などを目的に、周辺の国有林を「飯豊山周辺森林生態系保護地域（15千㍍）」に指定し、豊かな自然を後世に伝えるため、貴重な野生動植物の生息環境に配慮しながら適切に森林の維持管理を行っています。

（下越森林管理署広報広聴連絡官）



飯豊山付近に咲く「イイデリンドウ」